令和元年度社会福祉法人ゆくり

事　業　報　告　書

社会福祉法人ゆくり法人本部事業報告について

Ⅰ　事業報告について

1．令和元年度の評価と課題について

〇拠点整備計画について

・開発指導課（および障がい福祉課）と当該地に対して下記の 2 点を中心に協議を行ってきた。

①「市街化調整区域の立地に関する審査基準」において、市街化調整区域に居住している者の利用に供する公益上必要な建築物の条件として、当該事業に該当する面積要件（延床面積 200 ㎡以下で敷地面積 500 ㎡以下）の緩和を協議した。

②「開発審査会付議基準」において、条件に「市街化区域で行うことが困難または著しく不適当である特段の事由」があり、当該地がこの条件に合うのが協議を行った。

・結果としては、今のところ目途が立っていない。

〇障がい者芸術文化支援センターについて

・宮崎県より令和元年 6 月から令和 2 年３月まで単年度契約の委託事業として取り組んだ。

・主な事業としては、2020 年の芸文祭プレイベントとして「こころふれあう作品展」を開催した。

・他には、県内３か所でのワークショップ、その総括としてセミナー等を実施した。

・著作権の観点からたんぽぽの家より講師を招きセミナーを企画したが、コロナ禍で中止することとした。

〇日中一時支援事業所ゆくりの併設事業化の実施について

・事業開始当初から視野に入れていた「日中一時支援事業」と「生活介護事業」との併設は、令和元年１２月に「生活介護事業」の認可を受け、開始した。

〇評議員会・理事会の開催について

・評議員会：第 1 回；平成 30 年度事業報告および計算書類（案）、理事の選任　第 2 回　定款変更

・理 事 会：第 1 回；平成 30 年度事業報告および計算書類（案）、令和元年度第 1 次補正予算（案）、次期役員候補者など　第 2 回；理事長選定　第 3 回；鹿児島銀行より宮崎銀行への借り換え　第 4 回；日中一時支援事業での「生活介護」併設に係る認可要件としての運営規程の整備　第 5 回；定款変更、第 2 期評議員選任候補者の推薦　第 6 回；第 2 回補正予算、令和 2 年度計画・予算

アートステーションどんこや事業報告について

Ⅰ　事業報告について

□アートステーションどんこや事業報告

１．令和元年度の評価と課題について

○事業に対する評価と課題

・生活訓練利用者の生活介護への移行による実績の変動は多少あるが、契約および利用者数の大きな増減はみられていない。芸術を通した社会生活力の支援が安定的な利用につながっていると考えられる。

一方で利用率や支援の内容が安定的になる反面、その安定さを維持することに重きをおき、多角的な視点での支援の展開にまでは至っていないことがある。

・芸術活動において、対外的な作品展に応募するなど、個人一人ひとりの積極性が高まってきている。また、作品発表の場として、どんこや和室を個展会場として、各月交代でメンバーの個展を開いた。メンバー一人ひとりが自分で作り上げるものとなるため、役割感、責任感の高まりが著しくみられる。さらに、スタッフの展示計画の能力向上も少しずつみられている。

・職員の定着が図られてきており、常にコミュニケーションを取り合い、一人の利用者に全員で支援することができている。また、運営上の企画、支援に関する協議も即時にすることができている。しかし、日々の支援が優先されるため、新しい取り組みに関することへの企画、準備、実施に関しては不十分となったことは課題となった。

○生活介護利用者の変化と課題について

■利用者 A さん

昨年度 10 月より利用を開始された。以前利用されていた事業所では、関係性のトラブルにより、通所しないこともあったとのことであった。どんこやでの支援は、本人の描きたいものを求めていくことと、コミュニケーションをとるということを行ってきた。スタッフもメンバーも本人の描く絵を誉め、日常の会話をしていくことで、本人からの欲求も次第に出るようになり、休むことなく通所されている。保護者からは、「以前は祝日等は休むと言っていたが、今は自分から行くと言う」「洋服は自分で選ぶことはなかったが、今では着たい服を自分で選ぶようになった」などの、良い変化が出てきていることの話があっている。

■利用者 B さん

家族と生活されており、日常生活の中でも、どんこやにおいても、自己表現の弱さが課題となっており、少しずつ自己表現ができるようになることを目標として支援してきた。また、家族との生活の中で、少しずつ自立を考えていくことも目標の一つとしている。本人の意思表出のため、声かけ、促し等を行うと、その時は良い反応も出るが、一過性のもので終了してしまっている。家庭状

況とのバランスを見ながら、長期的な視点での支援を継続していくことが課題となっている。

■利用者 C さん

マジックでカラフルなモザイク的な絵を描く画風の C さんは、一つの作品を描くペースは大変ゆっくりであった。創作活動に新たな視点を加える意味も込めて、作品サイズを大きくすることを提案し、A1 サイズの紙を提供した。その作品を約 1 年かけて仕上げられた。その創作を通じて、スキルアップがあったのか、その後の作品の創作のスピードや集中力の向上がみられた。

○生活訓練利用者の変化と課題について

■利用者 D さん

支援学校卒業後そのまま通所となり、目標は生活習慣の改善であった。学校にはほとんど行くことができなかったとのことで、給食もほとんど食べなかったとのことであった。どんこやでは、本人の机を準備し、活動環境を整え、本人の意思、ペースにて活動ができるよう促した。創作が好きなようで、キャラクター等の作品を創作された。作品は額に入れて展示をしたり、評価を行った。学生時代ではなかなか参加できなかったとされていた活動にも積極的に参加された。またお昼ご飯もしっかりと食べられている。自分の居場所として安定した通所リズムであり、メンバーともコミュニケーションもとられ、活動を楽しまれている。今後は社会性スキルの向上を課題とした支援の展開を必要としている。

■利用者 E さん

精神的な不安定さから年度初めより極端に利用回数が減り、6 月に入院という形で、利用が終了した。他事業所との連携を取りながら、家庭生活および日中生活の支援を行ったが、金銭面での不安や服薬管理の課題が解決されず、医療的な支援対応となった。

２．実績報告について

①利用実績

・生活介護（単位：人）

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延べ利用者数	H31	213	215	233	243	240	229	257	236	233	228	237	220	2784
	H30	193	194	195	198	219	198	225	191	210	191	184	197	2395
日平均利用者数	H31	10.1	8.3	9.3	9.3	8.9	9.2	9.9	9.8	10.1	9.5	9.4	10	9.5
	H30	7.7	7.8	7.5	7.6	8.4	8.3	8.3	9.1	10	9.6	9.2	8.6	8.5

・生活訓練（単位：人）

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計

延べ	H31	68	74	68	52	41	37	38	37	35	35	34	33	548
利用者数	H30	83	88	92	78	69	49	55	63	50	48	50	71	796
日平均	H31	3.2	2.7	2.7	2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.5	1.9
利用者数	H30	3.3	3.5	3.5	3	2.6	2	2	3	2.4	2.4	2.5	3.1	2.8

②研修報告

①	研修名	福祉の基礎知識習得研修（障がい児・者）
	受講者	末　澤　　亮
	研修先	宮崎県福祉総合センター　人材研修館
	期　間	令和元年 5 月 22 日
	内　容	福祉の理念、職業倫理や関連法案・制度の動向等、福祉の仕事をするにあたって、基本となる知識や考え方について
②	研修名	記録技術研修（障がい児・者）
	受講者	山　口　里　美
	研修先	宮崎県福祉総合センター　人材研修館
	期　間	令和元年 7 月 3 日
	内　容	記録の意義や目的の理解および、記録方法に関することについて
③	研修名	福祉職員のための医学基礎知識研修
	受講者	後　藤　真　弓
	研修先	宮崎県福祉総合センター　人材研修館
	期　間	令和元年 8 月 30 日
	内　容	医療行為の正しい理解や服薬の知識や観察の方法について

③行事報告

①	行事名：お花見（文化公園） 開催日：4 月 3 日（水）参加者：メンバー18 名　スタッフ 5 名
②	行事名：スポーツレクリエーション（東大宮コミュニティセンター） 開催日：4 月 13 日（土）参加者：メンバー11 名　スタッフ 4 名
③	行事名：外出（フローランテ） 開催日：4 月 27 日（土）参加者：メンバー5 名　スタッフ 4 名
④	行事名：歩こう会（東大宮） 開催日：5 月 3 日（金）参加者：メンバー2 名　スタッフ 1 名
⑤	行事名：外出（サンビーチ一ッ葉） 開催日：5 月 3 日（金）参加者：メンバー7 名　スタッフ 3 名

⑥	行事名：スポーツレクリエーション（東大宮コミュニティセンター） 開催日：5 月 29 日（水）参加者：メンバー11 名　スタッフ 4 名
⑦	行事名：宮崎県障がい者芸術文化支援センター開所式（アートステーションどんこや） 開催日：6 月 4 日（木）参加者：メンバー12 名　スタッフ 5 名
⑧	行事名：現代国際巨匠絵画展（宮交シティ） 開催日：6 月 17 日（月）参加者：メンバー5 名　スタッフ 2 名
⑨	行事名：ボウリング大会（エースレーン） 開催日：6 月 20 日（木）参加者：メンバー15 名　スタッフ 5 名
⑩	行事名：スポーツレクリエーション（東大宮コミュニティセンター） 開催日：7 月 27 日（土）参加者：メンバー8 名　スタッフ 3 名
⑪	行事名：BBQ 大会（サンビーチ一ッ葉） 開催日：8 月 3 日（土）参加者：メンバー11 名　スタッフ 5 名　ボランティア 6 名
⑫	行事名：高鍋美術館鑑賞（高鍋美術館） 開催日：8 月 12 日（月）参加者：メンバー5 名　スタッフ 2 名
⑬	行事名：都城市美術展鑑賞（都城美術館） 開催日：9 月 16 日（月）参加者：メンバー5 名　スタッフ 2 名
⑭	行事名：こころのふれあうフェスタ（宮崎県立美術館） 開催日：11 月 27 日（水）～12 月 1 日（日）
⑮	行事名：こころのふれあうフェスタシンポジウム（宮崎県立美術館） 開催日：12 月 1 日（日）　パネリスト登壇：吉野由夏さん
⑯	行事名：クリスマス忘年会（アートステーションどんこや） 開催日：12 月 14 日（土）参加者：メンバー13 名　スタッフ 5 名
⑰	行事名：国際ソロプチミスト宮崎様とのクリスマス会（アートステーションどんこや） 開催日：12 月 19 日（木）参加者：メンバー14 名　スタッフ 5 名
⑱	行事名：餅つき（アートステーションどんこや） 開催日：12 月 27 日（金）参加者：メンバー14 名　スタッフ 5 名
⑲	行事名：初詣（宮崎神宮） 開催日：1 月 7 日（月）参加者：メンバー12 名　スタッフ 5 名
⑳	行事名：カラオケ大会（カラオケ BanBan） 開催日：2 月 21 日（金）　参加者：メンバー11 名　スタッフ 4 名
㉑	行事名：スポーツレクリエーション（東大宮コミュニティセンター） 開催日：2 月 22 日（土）　参加者：メンバー10 名　スタッフ 3 名
㉓	行事名：「Various artists」展（フィオーレ古賀 1 階） 開催日：3 月 2 日（月）～31 日（火）　出展メンバー：17 名

④見学・実習受け入れ

①	対象：みなみのかぜ支援学校（現場実習） 日程：6 月 3 日（月）～5 日（水）　人数：1 名
②	対象：みなみのかぜ支援学校（現場実習） 日程：6 月 10 日（月）～12 日（水）　人数：1 名
③	対象：宮崎県立看護大学（実習） 日程：7 月 30 日（火）～8 月 1 日（木）　人数：3 名
④	対象：宮崎公立大学（介護等体験） 日程：8 月 7 日（水）～10 日（土）、27 日（火）　人数：2 名
⑤	対象：宮崎東大宮小学校　2 年生 日程：11 月 19 日（木）　人数：10 名

⑤支払工賃実績（単位：円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
H31	79,700	30,020	30,900	63,350	37,270	26,600	
H30	37,600	83,540	49,730	28,050	33,310	58,170	
	10 月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
H31	63,090	31,630	51,890	35,780	27,100	84,830	562,170
H30	31,885	35,090	72,060	24,300	26,070	27,270	507,175

⑥売り上げ実績（単位：円）

年　度	平成２９年度	平成３０年度	平成３１年度
金　額	488,229	471,476	543,280

⑦健康診断

〇職員

実 施 日：1/22、23、24、29、4 の日間

実施人数：5 名

医療機関：宮崎県健康づくり協会

⑧防災訓練

開始日：令和元年 9 月 18 日（水）

場　所：アートステーションどんこや　花ヶ崎街区公園

内　容：火災発生時の避難誘導訓練　消火器訓練

参加者：メンバー10 名　スタッフ 5 名

開始日：令和２年３月 25 日（水）
場　所：アートステーションどんこや　花ヶ崎街区公園
内　容：津波発生時の避難誘導訓練　津波避難ビルへの経路確認
参加者：メンバー13 名　スタッフ６名

以上、総合防災訓練を行い、その他に５月、７月、11 月、１月に防災学習を実施した。内容は、地震や津波に関することで、スタッフが資料作成し実施した。

⑨助成金事業

〇平成 31 年度チャレンジ文化活動事業
事業名：Curation for Social Inclusion
～障がいのある人と社会とのかかわりを生み出す展示手法の開発事業～
助成元：公益財団法人宮崎県芸術文化協会
助成額：500,000 円
内　容：アート活動により生まれた作品を展示する際、社会とのつながりの一つと捉えることができ、アート活動を通した支援の場において大事な機会となるが、基本的には、作品展とは作品とキャプション（タイトル、作者名）にて展示されることが多く、それだけでは、作品に対する作者の想いや背景、その人となりまではなかなか伝わりきれない。そこで、想いや背景などの作品にまつわることや作者のことをまとめて伝えることができる新しい展示の開発に取り組んだ。
成　果：障がい福祉事業所のリサーチ、当事者と支援員、関係者を集めた会議、提案展示、シンポジウムを開催。
展示手法としては作者が作品を作り、周囲の人（支援員、家族、友人）が展示品を作るという、共に作る（Co-work）という形を提案。

〇令和元年度「第 35 回国民文化祭・みやざき 2020」「第 20 回全国障害者芸術･文化祭みやざき大会」障がい者アートを活用した商品開発推進事業補助金
事業名：「障がい者アートを活用した商品開発推進事業補助金」を活用した商品開発
～心のギフトをデザインするプロジェクト～
助成元：第 35 回国民文化祭宮崎県実行委員会　第 20 回全国障害者芸術・文化祭実行委員会
助成額：381,800 円
内　容：障がい者アートを活用した紙袋の試作品開発
成　果：4 種類の紙袋を作成（大×２、中×１、小×１）。

□宮崎県障がい者芸術文化支援センター事業報告

１．平成 31 年度の評価と課題について

・全国障害者芸術文化祭も一つのきっかけとなり、センターの存在の認知を広げることができた。当事者主体という思いをもって取り組み、小さいなりにもその姿が見られる場面があった。
・成果の一方で、まだまだ事業規模が小さいことや、当事者主体の前に、事業所や支援員主体となる場面が多くみられることが課題となった。
・センター事業がセンター職員の活動範囲のみでは解決できないものとなることがあり、どんこやスタッフの相当な負担になる場面もあった。事業効率や保障を十分に考えていくことが課題となる。

２．実績報告について

①相談支援

相談件数　15 件

電話による相談が主で、当事者、当事者の家族、報道関係者、イベント企画者、行政から受け付けた。内容としては、「作品発表の場はないか」「障がい者の芸術作品を展示したい」「作家を紹介してほしい」「自宅にて芸術活動をしているため、何かできないか」等であった。相談を受けた後に、情報の提供をしたり、現地に行き調査を行った。内容によっては、現在も継続的な支援を行っている。

②人材育成

「アート耕運機が耕しに来たぞ！」

ワークショップ

1. 日時：令和2年2月5日（水）
   場所：えびの市文化センター
   講師：松下太紀氏（造形作家）
   参加者数：障がいあり2名　障がいなし5名
2. 日時：令和2年2月12日（水）
   場所：日向市障がい者センターあいとぴあ
   講師：松下太紀氏（造形作家）
   参加者数：障がいあり8名　障がいなし4名
3. 日時：令和2年2月14日（金）
   場所：宮崎市青少年プラザ
   講師：松下太紀氏（造形作家）
   参加者数：障がいあり８名　障がいなし５名

セミナー

日時：令和2年2月24日（月）
場所：アートステーションどんこや
講師：高峰由美氏（株式会社ブルーバニーカンパニー代表）

富村博光氏（アートステーションどんこや施設長）

参加者数：障がいあり6名　障がいなし10名

シンポジウム（コロナウイルスの影響で中止）

日時：令和2年3月7日（土）

場所：宮崎市総合福祉保健センター

講師：後安美紀氏（一般社団法人たんぽぽの家）

ワークショップ作品展示（シンポジウムの中止を受けて）

日時：令和2年3月11日（水）～31日（火）

場所：いつかベース

③ネットワークづくり

事業所等に訪問し、組織体制を構築に努めた。また、本県のみならず、他県の支援センターや広域センター等とのネットワークづくりのため、県外出張や研修の場にも積極的に参加した。また、芸術活動に関して、関わりがあり得る、美術館関係や教育関係、弁護士関係の専門的な組織との協力体制の整備を行った。

出張報告

①	会議名	令和元年度　障害者芸術文化活動普及支援事業　第2回全国連絡会議
	受講者	愛　甲　貴　大
	出張先	TKP東京駅八重洲カンファレンスセンターホール
	期　間	令和元年8月21日（水）～22日（木）
	内　容	支援センターの進捗状況の報告およびモデル事業の紹介
②	会議名	令和元年度　障害者芸術文化活動普及支援事業　九州ブロック会議
	受講者	愛　甲　貴　大
	出張先	久留米シティプラザ
	期　間	令和元年8月29日（木）
	内　容	支援センターの事業計画の共有および九州ブロックでの方針決め
③	会議名	令和元年度　障害者芸術文化活動普及支援事業　第3回全国連絡会議 全国障害者芸術・文化祭新潟大会視察
	受講者	愛　甲　貴　大
	出張先	新潟コンベンションセンター
	期　間	令和元年10月10日（木）～14（日）
	内　容	ブロックレベルの支援センターの取り組み状況及び、各支援センターの情報交換
④	会議名	令和元年度　障害者芸術文化活動普及支援事業　成果報告会
	受講者	愛　甲　貴　大　・　岩　切　明日香
	出張先	フクラシア東京ステーション
	期　間	令和2年2月25日（火）～26（水）

	内　容	支援センターの情報交換および、支援ガイドの使用方法の講習

④発表の機会の創出

“こころ”のふれあうフェスタ2019作品展

日時：令和元年11月27日（水）～12月1日（日）

場所：宮崎県立美術館　2F　県民ギャラリー

出展者数：障がいあり190名　障がいなし8名

来場者数：936名

クロージングイベント

「アートと障がい者支援についてのトークイベント」

日時：令和元年12月1日

場所：宮崎県立美術館　1F　アートホール

コーディネーター：外前田孝氏（宮崎日日新聞社部長）

パネリスト：坂本金一氏（造形作家）

小林順一氏（NPO法人　もやいの会）

吉野由夏氏（アートステーションどんこや利用者）

⑤情報収集・発信

センター開所と同時にHPおよび、Facebookを開設し、県内の障がい者芸術に関するイベントや全国障害者芸術文化祭みやざき大会に関する情報を発信した。また、県外でのイベントやセミナー等に関しても、資料を収集し、配布を行った。

県内の障がい福祉サービス事業所に対して、芸術活動に関するアンケート調査を行い、芸術活動に対する意識や望み、疑問点等の情報を収集した。

⑥作成物

・宮崎県障がい者芸術文化支援センター（リーフレット）

・はじめまして、宮崎県障がい者芸術文化支援センターです。（報告書）

ヘルパーステーションぽっぽや事業報告について

Ⅰ　事業報告について

１．令和元年度の評価と課題について

【事業所体制】

・早朝／夜間／深夜帯のサービスに入っていたサ責の労働時間を見直したことで常勤スタッフと直接顔を合わせてのコミュニケーションが出来、事業所全体の一体感が生まれる結果となった。一方、人材確保は困難で前年度のハローワークからの雇用求人面接依頼は０件。スタッフの紹介で日中帯稼働希望の非常勤スタッフ１名のみの雇用となり、早朝夜間深夜帯のサービスに入れるスタッフの確保は出来ず、新規依頼のサービスを受けられない現状があり、今後の課題となった。

・新規契約時に、サービス量が多い際は当事業所のみで対応するのではなく複数事業所の導入等を提案し、利用者の生活を守る事を第一に考えることでスタッフの急な休み等も協力体制がとれやすくなった。また利用者が入院等でキャンセルになっても極端に売上が下がる事がなくなった。一方で、契約数を増やさないと売上を増やせないが、サ責の負担が増えている事が課題となった。

・事務処理の非常勤スタッフがいることで、後回しになっていた事務作業を行えるようになった。一方で、高齢の非常勤スタッフの身体状況から支援できる内容が限られしまう状況があり、サービスがあっても派遣できない事が課題となった。

【支援について】

・重度糖尿病がある精神障がい者宅で家事援助(調理：食事制限あり)の支援に入っているが、支援以外でジュースやカップラーメンを大量に飲食し、命の危険がある状態。本人様・相談員・訪問看護・医療機関とケース会議を重ね、本人様が「在宅で好きな物を食べ好きな事が出来れば死んでもいい」との意思から、支援を継続する事となった。当事業所として葛藤はあるものの本人本位の支援を実践出来ている。

・精神障がい者宅で家事援助(調理)の支援に入っているが、支援者が食事のメニューのアドバイスをしても中々決める事が出来ない状態でサービス時間に終わらない事が多々あった。支援者とアセスメントを行い、メニュー表(70 種類程度)を作成し視える化を実践したところ、スムーズにメニューを決める事が出来、本人様の表情も和らいでいった。本人様の自立に向けた取り組みが出来ている。

・重複障がい(身体/知的)の利用者と精神障がいの母親宅に身体介護(入浴)の支援に約３年、入っていたが支援日でない日に母親より電話があり、「息子の臀部にアザがある。息子に聞いたら支援者がした」との事。担当者会議を開催し、前回の支援時にアザに気付かなかった事を謝罪するとともにアザになるような行為は身に覚えがない事を伝え(支援継続にあたりお互いの信頼関係の重要性を説明)和解となるも、翌日に当事業のサービスは終了するとの連絡があり契約終了となる。このケースに関わらず、事業所と利用者のやり取りの理解に差が生じる事が課題となった。

２．実績報告について

①利用実績

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
	介護職員人数	R1	4人	4人	4人	6人	6人	6人	30人
	利用人数	R1	16人	15人	15人	15人	15人	14人	90人
		H30	11人	11人	11人	11人	12人	12人	68人
居宅介護	家事援助(時間)	R1	105.5h	106.5h	107.5h	115.5h	106.5h	111.0h	652.5h
		H30	72.5h	77.5h	74.5h	84.5h	87.0h	82.0h	478.0h
	身体介護(時間)	R1	26.5h	29.5h	43.0h	47.0h	43.0h	27.5h	216.5h
		H30	21.5h	78.0h	118.0h	107.5h	111.0h	97.5h	533.5h
	通院介助(時間)	R1	20.5h	24.0h	30.0h	27.5h	16.5h	14.0h	132.5h
		H30	17.0h	17.0h	17.5h	18.0h	14.5h	21.5h	105.5h
外出介護	利用人数	R1	8人	8人	6人	7人	8人	8人	45人
		H30	10人	10人	10人	10人	7人	9人	56人
	支援時間	R1	41.5h	42.5h	35.5h	49.0h	51.5h	39.0h	259.0h
		H30	56.0h	67.0h	56.0h	52.5h	50.5h	52.0h	334.0h
訪問介護	利用人数	R1	2人	0人	0人	1人	1人	1人	5人
		H30	2人	3人	3人	3人	3人	3人	17人
	支援単位	R1	682	0	0	2,205	2,205	1,960	7,052
		H30	1,796	15,289	28,426	28,141	29,678	26,363	129,693

			10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
	介護職員人数	R1	6人	6人	6人	5人	4人	5人	32人
	利用人数	R1	15人	15人	16人	15人	16人	16人	183人
		H30	13人	14人	14人	15人	16人	15人	155人

居宅介護	家事援助(時間)	R1	137.5h	137.5h	132.5h	129.0h	118.0h	125.5h	1,432.5h
		H30	92.5h	85.5h	89.5h	98.0h	95.5h	100.5h	1,039.5h
	身体介護(時間)	R1	48.5h	39.5h	40.5h	37.0h	32.5h	33.0h	447.5h
		H30	111.0h	108.0h	118.0h	114.0h	40.0h	39.0h	1,063.5h
	通院介助(時間)	R1	9.5h	22.0h	15.0h	19.0h	32.5h	25.5h	256.0h
		H30	10.5h	20.0h	25.5h	21.5h	26.0h	18.0h	227.0h
外出介護	利用人数	R1	9 人	10 人	11 人	8 人	9 人	5 人	97 人
		H30	11 人	11 人	11 人	9 人	9 人	9 人	116 人
	支援時間	R1	55.5h	46.0h	50.5h	44.0h	41.5h	35.0h	531.5h
		H30	65.5h	62.5h	57.0h	52.0h	41.5h	46.5h	659.0h
訪問介護	利用人数	R1	1 人	1 人	1 人	1 人	1 人	1 人	11 人
		H30	3 人	3 人	3 人	3 人	2 人	2 人	33 人
	支援単位	R1	1,968	2,460	3,198	2,952	2,952	3,444	24,026
		H30	26,016	19,247	16,732	16,474	1,796	2,245	212,203

※H30 年度と令和元年度の比較を行うと、居宅介護（身体介護）と訪問介護に大幅な減が見られる。この理由として H30 年度は、一人の利用者のサービスに入っている割合が多く、この方が入院(入所)してサービスが終了したことが大きな一因となっている。

②研修報告

【職員外部研修】

①	研修名	指定障がい福祉サービス事業者等集団指導
	受講者	清　水　俊　太
	研修先	宮崎市民文化ホール大ホール
	期　間	令和元年 7 月 11 日（木）
	内　容	制度説明／指導・監査説明
②	研修名	福祉有償運送サービス運転従事者養成講習
	受講者	清　水　さとみ
	研修先	警友自動車学校
	期　間	令和元年 10 月 10 日（木）／　10 月 11 日（金）
	内　容	運転に関する法令や安全運転の講義及び障がい支援の講義
③	研修名	「人材定着のコツ～気づこう『介護のセカイ』の魅力」
	受講者	清　水　俊　太
	研修先	JA・AZM ホール
	期　間	令和元年 11 月 15 日（金）
	内　容	介護職員の定着率アップのために今出来ること
④	研修名	障がい者虐待防止・権利擁護研修　管理者コース
	受講者	清　水　俊　太
	研修先	シーガイアコンベンションセンター（共通研修）/県社協

	期　間	令和元年 10 月 7 日（月）/　12 月 6 日（金）
	内　容	障がい者福祉施設等における虐待の種類、虐待の防止と対応研修
⑤	研修名	障がい者虐待防止・権利擁護研修　従事者コース
	受講者	杉　尾　晴　代
	研修先	シーガイアコンベンションセンター（共通研修）/県社協
	期　間	令和元年 10 月 7 日（月）/　12 月 2 日（火）
	内　容	障がい者福祉施設等における虐待の種類、虐待の防止と対応研修
⑥	研修名	福祉有償運送実施事業所向け研修会
	受講者	清　水　俊　太
	研修先	宮崎運輸支局
	期　間	令和 2 年 3 月 13 日（金）
	内　容	**※コロナの影響で中止**
⑦	研修名	パーソナリティ障がいの理解と支援
	受講者	清　水　俊　太
	研修先	宮崎市清武文化会館
	期　間	令和 2 年 3 月 19 日（木）
	内　容	**※コロナの影響で中止**
⑧	研修名	第 2 回宮崎市集団指導（介護保険課）
	受講者	清　水　俊　太
	研修先	宮崎市中央公民館
	期　間	令和 2 年 3 月 23 日（月）
	内　容	**※コロナの影響で中止**

【職員内部研修（ヘルパー会議）】

月	内　　容	月	内　　容
4 月	事故発生時の対応について	10 月	ケースについての意見交換
5 月	ヘルパー業務の心得	11 月	感染予防について
6 月	ケースの事例検討	12 月	虐待防止研修
7 月	成年後見制度について	1 月	本人本位の支援とは
8 月	事業の方向性について	2 月	コロナウイルス感染症対策
9 月	各障がいについての理解	3 月	コロナウイルス対策　資料配布

③健康診断

実　施　日：10/15(火)、17(木)、30(水)　3 日間

実 施 人 数：4 名　※他 3 名は別機関で実施

医 療 機 関：宮崎県健康づくり協会

みんなの居場所　おおきな木事業報告について

Ⅰ　事業報告について

１．令和元年度の評価と課題について

・「水ようごはん会（こども食堂)」は、今年度は宮崎県共同募金会の「こどもたちの明るい未来づくり基金助成金助成金」をいただき、アサヒ飲料さんから、たくさんのカルピスや三ツ矢サイダー、食器棚や調理台、調理器具等（１７万円分）を購入させていただきました。

　また、こども食堂コーディネーターやみやざきこども文化センターからのサポートがあり、継続的な食材の寄付をいただける状況となり、参加費で運営できるようになっている。

　今後も継続実施できるよう、助成金等を積極的に活用していく必要あり。

・「土曜おやつ会（こども食堂)」は、定期的に月１回の開催ができ、ヴィーガンスイーツやピッツアなどを専門的に教えてくれる講師を招いて行う事で、またいつもの参加者とは違うメンバーの広がりもある。平日には来られない参加者の方たちや、お友達同士で誘い合って来てくれる地域の小学生にも繋がっている。さらに地域に根差した取り組みとなっていくよう、理解者を増やしていく。

・子育て支援課との連携を図り、子ども食堂参加者の中での、気になる子どもさんの事等ついても相談体制が取れ、地域の小学校との連絡調整を図る事ができた。今後も、行政、地域との繋がりを大切に、効果的な連携体制を整えていく。

・３月より、コロナ対策のため、「水ようごはん会」「高齢者サロン」をお休みする。また、小学校休校がスタートして、４月中旬まで「ほうかごじかん」は営業をしていたが、その後休止をする。緊急事態宣言解除後、「ほうかごじかん」は再開している。三密を避けて、マスク、手洗い、消毒、検温を徹底して、外部から持ち込まないよう気を付けている。また、子どもたちにコロナについての話し合いなど実施して、理解を図っている。

２．実績報告について

①利用実績

・ほうかごじかん利用児童数　延べ人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
R1 年度	15 人	12 人	4 人	15 人	21 人	3 人	
H30 年度	20 人	7 人	6 人	21 人	27 人	12 人	
前年度比	△5	5	△2	△6	△6	△9	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R1 年度	16 人	10 人	12 人	8 人	4 人	13 人	133
H30 年度	22 人	7 人	18 人	8 人	5 人	14 人	167
前年度比	△6	3	△6	0	△1	△1	△34

・ほうかごじかんの利用者数は、今年度は減少傾向であったが、コロナウイルス感染対策休校に伴い、新規利用者の広がりがあり、新規利用児童数が６名増えた。

中には、障がいのある児童さんの利用も増えてきおり、自然なかたちで、地域でのインクルージョンができている。元放課後等デイサービス職員２名が入職した為、相談・対応ができる体制になっている。

また、今年度は特に、子どもたちに「ちいさい頃から、いろんな大人との出会いや体験の機会を」というテーマで、イベント企画に力を入れる事ができた。「平家の郷」「白水舎」でお仕事体験、弁護士さんのお仕事体験、音楽、乗馬、英語、ヨガ、絵画、料理、買い物、防災グッズ作り、火山実験体験、農作物収穫体験、就労継続支援Ａ型でのお仕事体験などの様々な機会を提供できた。

・水曜ごはん会参加者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
R1 年度	29 人	38 人	38 人	62 人	57 人	9 人	
H30 年度	20 人	6 人	0 人	8 人	49 人	0 人	
前年度比	9	32	38	54	8	9	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R1 年度	15 人	14 人	42 人	41 人	35 人	10 人	390
H30 年度	15 人	8 人	14 人	8 人	37 人	25 人	190
前年度比	0	6	28	33	△2	△15	200

・水曜ごはん会に、障がい児・者の参加も増えている。福祉サービスの輪の中に馴染めない方でも、子ども達や普段接点を持たない世代の人たちと接する事で、普通に輪の中に入られ、一員として協力、活躍し、何かおおきな木の人たちの為に頑張ろうとされる姿が見られる。

・食材の寄付先が大きく広がり、寄付の食材を中心に運営できている。

・広報活動としては、「子ども食堂勉強会」での事例発表者、パネリストとして参加。「こども食堂フードドライブ」MRT「ニュース Next」出演。UMK「スーパーニュース」「U-doki」、「MRT ラジオ」SCOOPY 出演。

②研修報告

・「子ども食堂勉強会」令和１年７月２１日

・こども食堂ネットワーク会議、勉強会　令和１年５月１０日

・宮崎県子どもの対策人材育成研修　令和１年２月２８日

③行事報告

・中央西地区まちづくり高齢者サロン

定期的に開催でき、４年間続けて参加者も定着している。みなさん健康を保たれ、元気に足を運

んでくださっている。「小戸西池地区総合文化祭」にも毎年、童話に合わせての手話を、子どもたちと一緒に発表している。子どもたちの「ハロウィンイベント」の際は、高齢者のみなさんにもご協力いただき、10 軒ほどのご自宅へ、仮装した子どもたちにお菓子を配っていただいた。

そうだんサポートおおきな木事業報告について

Ⅰ　事業報告について

１．令和元年度の評価と課題について

・今年度は、相談支援専門員が２名体制となる。昨年度に比べて、収入としては、１００万円増となったが、人件費も増えた為、収支としては△９６万円となった。想定していた程の収入が結果として出なかった。

・児童相談のケースの担当数が増加した。育児支援ケース（障がいのある保護者さんが出産をして、赤ちゃんを家庭で育てている）の依頼も、実績から相談が増えている。

・支援の中で、困難ケースでは、障がい福祉サービスに付随する生活に関する支援（住居問題、就労問題、金銭管理、子育て支援など）を求められる状況も広がってきた。多職種と連携しながら、ご本人に合った生活をサポートできたと感じている。仕事内容としては多岐にわたるが、収入とならない動きも多い。具体的には、上記に関連するサポートにおいての行政とのやりとりや、手続きのサポート、情報収集の時間などである。

・今回のコロナウイルス対策のため、相談員の在宅勤務の実施、会議を開催せずに、電話やメール、FAX でのやりとりに変え、感染防止を行った。

２．実績報告について

①利用実績

・計画作成（新規・更新）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
R1 年度	５件（者） ９件（児）	３件（者） ５件（児）	６件（者） ６件（児）	４件（者） ２件（児）	５件（者） ２件（児）	１件（者） ３件（児）	
H30 年度	６件（者） ２件（児）	３件（者） ５件（児）	７件（者） １件（児）	４件（者） ４件（児）	２件（者） ０件（児）	１件（者） ０件（児）	
前年度比	△１ ７	０ ０	△１ ５	０ △２	３ ２	０ ３	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合　計
R1 年度	５件（者） ６件（児）	８件（者） ６件（児）	７件（者） ５件（児）	５件（者） ５件（児）	７件（者） ０件（児）	８件（者） ７件（児）	６４件 ５６件

H30 年度	２件（者） ２件（児）	３件（者） １件（児）	１件（者） ０件（児）	２件（者） １件（児）	０件（者） ０件（児）	１件（者） ０件（児）	３２件 １６件
前年度比	３ ４	５ ５	６ ５	３ ４	７ ０	７ ７	３２ ４０

・３年目は、障がい児・者共に、利用者数が増大した。基幹相談支援センターからの紹介はもちろん、病院、訪問看護ステーション、行政、各障がい福祉サービス事業所からの紹介があった。福祉サービス利用終了者（福祉サービスを使わなくなる方、一般就労をする方など）も増加し、昨年は、新規ケース依頼を断っていたが、また現在は、新規ケースを受けている。

・モニタリング

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
Ｒ１年度	９件（者） ８件（者）	14 件（者） 14 件（児）	16 件（者） 8 件（児）	４件（者） ６件（児）	10 件（者） ３件（児）	16 件（者） 8 件（児）	
H30 年度	16 件（者） ６件（児）	11 件（者） ８件（児）	14 件（者） ８件（児）	７件（者） ８件（児）	９件（者） ４件（児）	11 件（者） ４件（児）	
前年度比	△７ ２	３ ６	２ ０	△３ △２	１ △１	５ ４	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合　計
Ｒ１年度	９件（者） 20 件（児）	20 件（者） 4 件（児）	14 件（者） 15 件（児）	24 件（者） ６件（児）	20 件（者） ８件（児）	13 件（者） 11 件（児）	１６９ １１１
H30 年度	12 件（者） 10 件（児）	14 件（者） ６件（児）	14 件（者） ７件（児）	20 件（者） ５件（児）	17 件（者） ３件（児）	21 件（者） ８件（児）	１６６ ７７
前年度比	△３ １０	６ △２	０ ８	４ １	３ ５	△８ ３	３ ３４

・担当ケースが増え、定期的なモニタリングや更新手続きなど、締め切りまでに追われている状況がある。効率的、計画的に実施していく。

定期的なモニタリングの月以外でも、ご本人や関係機関からモニタリングや会議の要望もあり、会議の必要性などを理解していただいている。

会議の参加者としても、障がい福祉サービス事業所以外にも、医療関係者、子育て支援関係者、学校など協力を得て、多職種で集まっての会議が行えるようになっている。

②研修報告

・相談支援推進会議及び計画相談支援、障がい児・者相談支援に関する事例検討会
・自立支援協議会　相談支援部会
・自立支援協議会　就労支援部会
・自立支援協議会　子ども支援部会

・相談支援専門員現任研修　令和１年１月１５、１６、２月１３日

③健康診断

・令和１年２月に実施。

Ｎ．Ｃ．Ｓ．ｓｔａｔｉｏｎ事業報告について

Ⅰ　事業報告について

１．令和元年度の評価と課題について

・平成３１年４月から令和１年１１月まで日中一時支援事業のみ実施してきたが、令和１年１２月１日より生活介護事業（定数２０人）と日中一時支援事業（定数６人）の指定を受けての実施となった。

・令和１年３月３１日時点での利用契約者数は生活介護事業１４人と日中一時支援事業１３人で、成人利用者については更に３人が生活介護事業へ移行予定となっている。

・生活介護事業及び日中一時支援事業の利用者について、ほぼ重症心身障がい児・者であるが、約半数が日常的に医療的ケアを要する利用者である。

・年度前半については、職員の入れ替りや利用者の入れ替りもあり、利用者数や収入について不安定な状況が続いたのだが、１２月以降については生活介護・日中一時の利用者合算数は前年度を上回っている。

・訓練等については理学療法士が９月までで退職となったため、４月～９月までの実施状況となる。

・制度上の人員配置基準を満たすため、かつ手厚い支援を行なっていく上でも看護・介護職員の追加雇用は必要であるが、確保が難しい。

・医療依存度の高い利用者へ十分な支援を行なうためにも、制度上の見直しは必要となる。

・看護業務、介護業務、余暇支援、訓練などの業務については、ある程度充実した支援は行えたと考えるが、職員の入れ替わりによる質の低下を招かないよう計画していきたい。

・今回の報告書において、業務内容についての統計報告については、生活介護事業利用者と日中一時支援事業利用者を分けておらず、合算の件数報告とした。

２．実績報告について

①利用実績

ア．生活介護利用人数（累計：人）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
Ｒ１年度	―	―	―	―	―	―	―	―	33	57	72	84	246
H30 年度	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
前年度比	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―

・成人利用者を対象とした生活介護事業を１２月１日より実施したのだが、１１月まで日中一時支援事業を利用していた利用者を毎月数名ずつ生活介護事業利用者として移行していただいた。

・医療的ケアを要する方の欠席や長期入院があったため、本来の利用予定に比べ１～２割減での利用結果となっている。

イ．日中一時支援利用人数（累計：人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R１年度	139	135	116	138	132	139	151	148	102	98	63	89	1,450
H30年度	140	154	142	158	162	128	154	148	127	132	122	145	1,712
前年度比	99%	87%	81%	87%	81%	108%	98%	100%	80%	74%	51%	61%	84%

・４月～１１月までは成人と児童を対象とした日中一時支援事業であったが、１２月より成人利用者のほとんどが生活介護事業へ移行しているため、以降は児童中心の日中一時支援事業となっている。

・医療的ケアを要する方の欠席が多く、本来の利用予定に比べ１～２割減での利用結果となっている。ただし、コロナウイルスによる支援学校等の休校に伴い、年度末（３月）は児童の利用が増となっている。

②介護業務内容

ア．食事介護（累計：人）

項目＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
食事介助	89	89	73	81	74	92	100	94	86	108	81	88	1,055

・食事は外注によりお弁当形式であるが、利用者の摂食状態に合わせて、それぞれ加工（刻みやすり潰し、ミキサー加工等）を行って提供している。

・食事介護は自然開口できない、咀嚼に時間を要する等の理由で、マンツーマン介護でないと困難な利用者が多い。

・食事の際の利用者の姿勢保持にも注意が必要で、誤嚥等が無いよう配慮している。

イ．移乗・ポジショニング介護（累計：人）

項目＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
移乗	133	131	115	135	131	133	157	147	135	151	133	158	1,659
ポジショニング	98	96	80	94	89	92	98	103	94	111	95	115	1,165

・移乗介護は、ほぼ全利用者に必要で、移乗時には職員２名体制で行っている。

・ベッドや床上でのポジショニングは危険防止、褥瘡予防を目的とした体位交換の為に行っている。

・移乗時の際、補装具（コルセットや短下肢装具）の着脱を伴う利用者も多くいる。

・座位保持装置（車いす）上では、安楽な姿勢保持や褥瘡予防のために、適切なフィッティングが必要である。

ウ．排泄介護（累計：人）

項目＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
誘導	28	23	24	31	21	25	26	24	22	23	21	26	294
オムツ	134	133	113	127	128	134	157	146	128	148	131	152	1,631
尿器	7	5	8	7	11	13	16	14	14	13	13	12	133

・誘導＋オムツ交換を要する重複の利用者は１名。

・オムツ交換時は紙パンツや尿取りパット等を使用しているが、個々に使用方法が異なる。

・体重の重い方や、重度の変形拘縮等がある方の場合は、職員２名体制で排泄介護を行っている。

エ．送迎支援（累計：人）

項　目＼月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
医療的支援	78	93	76	83	69	108	112	120	102	119	112	110	1,182
介護支援	112	109	102	119	104	122	132	128	120	141	112	114	1,415

・送迎支援はドライバー、同乗の２名体勢が多く、特に移動中に吸引を要する利用者もいるため注意が必要である。

・吸引等の医療的支援が無い利用者でも姿勢管理（体幹保持）ができない方がほとんどであるため、支援が必要となる。

・送迎の際、異常が起きた場合、同乗の職員がケアを行う。

・保護者に介護疲れや腰痛を抱える方も多く、それぞれのご自宅において、座位保持装置（車いす）とベッド間で移乗介護を手伝う件数が増加している。

③看護業務内容

ア．医療的ケア実施内容別件数内訳（累計：人）

項　目＼月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
酸素投与	3	7	3	4	7	3	5	3	4	3	2	8	52
経鼻注入	1	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	8	13
胃瘻注入	56	58	52	63	64	52	55	61	53	62	57	69	702
経腸注入	1	3	1	3	3	4	4	4	4	3	3	4	37
気管切開吸引	30	32	26	35	41	29	31	32	30	38	32	39	395
口鼻腔吸引	41	45	32	42	53	44	44	50	42	52	47	58	550
呼吸器管理	16	14	10	14	16	13	13	14	16	17	14	19	176
吸入	4	2	0	0	2	8	5	7	8	8	7	8	59
カフアシスト	2	5	2	4	9	2	4	1	1	3	1	7	41
座薬挿肛	3	2	1	2	3	4	4	1	2	3	3	3	31
内服投与(経口)	19	18	15	15	14	24	23	22	20	19	15	16	220
内服投与(経管)	22	26	17	22	21	18	22	20	15	25	24	26	258
褥瘡処置	2	4	3	4	2	3	5	4	3	9	8	2	49
創傷処置	4	3	4	4	3	4	3	4	5	4	4	4	46
軟膏塗布	63	62	47	62	63	63	60	48	36	68	62	59	693

合　計	267	283	213	274	302	271	278	271	239	315	279	330	3322

・月曜から金曜まで、常勤看護師２名とパート看護師０．５名で実施している。

・酸素投与は常時使用の方と、酸素飽和度値により判断投与する方がいる。

・年度途中で、経鼻経管栄養の利用者が１名追加となった。

・経腸栄養、カフアシスト（換気療法）を施行した方が１名あった。

・吸入に関しては、常時行う場合と臨時で行う場合とがあった。又、１日の施行回数が１回から２回に増える方もいた。

・癲癇発作や発熱時に使用する座薬について、定期で挿肛している方が１名おり、実際使用していないが事業所での保管管理を要する方もいる。

・内服薬投与は定期薬の他、体調不良時の臨時薬の内服投与を行った。

・軟膏塗布については処方指示のあった物をカウントしているが、その他にも市販薬の塗布もあった。

・吸引に関して、事業所内において実施した分をカウントしているが、送迎時の実施分はカウントしていない。

・1 人当たりの１日の吸引回数については個人差があり、１～２回/日から多い方で数十回/日行う方もいた。又、吸引器については手動と電動の２種類を使い分ける。

・気管切開については、カニューレが入っている方と自然瘻孔の方がいた。

・排便コントロールとして、摘便や浣腸を行うこともあった。

・カウント集計はしていないが、点眼・点耳・点鼻をする方もいた。

・急変（呼吸状態の悪化）にて宮崎大学病院へ緊急搬送した方が１名いた。

・常時 事業所でケアを行いながら普段と違う様子がみられる場合は、保護者や訪問看護スタッフと連絡をとり、指示を受けて対応している。

④訓練業務内容

ア．理学療法実施延べ人数（累計：人）

実施月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
実施人数	54	49	32	32	16	19	—	—	—	—	—	—	202

イ．実施内容別件数内訳（累計：人）

項　目＼月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
関節可動域運動	47	30	22	25	12	17	—	—	—	—	—	—	153
ストレッチ	44	25	19	24	12	18	—	—	—	—	—	—	142
胸郭モビライゼーション	1	2	2	1	2	2	—	—	—	—	—	—	10
呼吸介助	9	4	3	6	2	5	—	—	—	—	—	—	29
リラクゼーション	8	12	8	5	2	11	—	—	—	—	—	—	46
腹部マッサージ	1	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	1

姿勢変換動作練習	6	6	2	2	3	3	—	—	—	—	—	—	22
腹臥位姿勢保持	2	1	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	3
ポジショニング	9	10	4	6	3	3	—	—	—	—	—	—	35
側臥位姿勢保持	6	6	2	1	3	3	—	—	—	—	—	—	21
座位保持練習	3	8	6	4	5	1	—	—	—	—	—	—	27
しゃがみ肢位保持練習	0	1	2	3	1	0	—	—	—	—	—	—	7
四つ這い位保持	0	0	2	1	2	0	—	—	—	—	—	—	5
立位保持練習	1	1	0	0	0	1	—	—	—	—	—	—	3
いざり動作練習	0	3	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	3
歩行練習	7	7	5	6	2	3	—	—	—	—	—	—	30
起き上がり動作練習	3	8	6	4	4	1	—	—	—	—	—	—	26
立ち上がり動作練習	1	0	0	0	0	2	—	—	—	—	—	—	3
座位保持装置調整	1	0	0	1	0	0	—	—	—	—	—	—	2
合　計	149	124	83	89	53	70	—	—	—	—	—	—	568

・重度心身障がい児・者にとって、身体機能を維持させていくこと、変形・拘縮を予防していくことは非常に大切なことである。特に、呼吸器を使用している方（限られた範囲の中での運動・姿勢を余儀なくされるため)、支援学校高等部を卒業した方は、運動量が少なくなり、関節可動域運動（ROM-ex）が特に必要となる。関節は、骨・軟骨・関節包・筋肉・靭帯・神経・血管・皮膚などで構成されており、そのすべての組織因子が関わっている。筋などの伸張性・柔軟性を保つことは、疼痛の軽減や運動機能を維持させていくために不可欠であり、運動感覚や血液循環の維持にもつながる。

・重度心身障がい児・者は、呼吸に携わる各諸器官の発達遅滞に加え、同じ姿勢で過ごす時間が多いため、重力に負けてしまい胸郭の変形をきたしてしまう。胸郭の運動が制限されることで起きる胸郭呼吸運動障害により、呼吸が浅くなってしまい、痰を上手く排出することが難しいケースが多い。また、筋緊張が強い方は、頸部を過剰に反らせて（過伸展）しまい、上気道換気障害となり、スムーズな呼吸が困難となってしまうことも多い。呼吸理学療法として、全身調整運動（リラクゼーションやモビライゼーション:動きをよくするための手技)、体位変換、呼吸介助を実施している。また、座位保持装置や仰向け臥位で過ごす時間が多いと、背中側（下側肺）の動きが物理的に制限されてしまうため、十分な換気が行えず、痰の移動が上手くできなくなり、「肺の中でも大部分を占める下側肺に痰が常に貯留してしまう状態になるという問題」が起きる。そのため、側臥位・うつ伏せなどの様々な姿勢保持の時間を作り、楽な姿勢で排痰を促せるよう、クッション等を用いてポジショニングも同時に実施している。

・様々な姿勢で過ごせる時間を作り、ポジショニングを行うことは、胸郭・脊椎などの変形・拘縮予防にも効果がある。さらに、姿勢変換動作をゆっくりと行うことで、色々な箇所の関節の動きを促し、皮膚などの軟部組織の柔軟性を引き出し、筋の伸張性・柔軟性維持にも効果があるため、一つひとつの動作・姿勢づくりを丁寧に行うように努めている。

⑤食事加工準備内容

ア．給食関連　食事加工種別統計（累計：人）

月 加工種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一口大	20	17	19	18	19	25	31	28	31	32	23	24	287
大ｷｻﾞﾐ	8	9	8	9	9	7	9	8	6	8	7	8	96
小ｷｻﾞﾐ	18	18	16	21	15	19	19	18	16	18	18	17	213
ペースト①	27	24	20	21	21	29	26	27	26	27	25	27	300
ペースト②	10	14	10	10	11	14	16	17	9	12	14	16	153
合　計	83	82	73	79	75	94	101	98	88	97	87	92	1049

・主食・副食とも、普通食(加工なし)の弁当を事業所で加工して提供している。

・主食は、普通食と軟ご飯の２種類がある。

・副食は、上記の表に示した５種類がある。

・ペースト①は ブレンダーやすり鉢を使ってハンバーグの種状に加工したものとした。

・ペースト②は ペースト①を更に漉し器(漉し網)で漉したものとした。

・ペースト②は経口摂取の方だけではなく、胃瘻より注入する方もいる。そのため、なるべく粒が残らないように注意を払う必要がある。

・ペースト②の経口摂取の方は、各副食を一品ずつ分けて漉さなければならないため、その手間と時間を要する。

・ペースト②の胃瘻注入の方は、主食・副食を混ぜてミキサーにかけることが出来るが、チューブ閉塞を来さぬよう、粒・残渣を出来るだけ残さず滑らかに加工しておく必要がある。

・食事加工専門の職員（栄養士）が年度の途中から勤務しているが、毎日の勤務は難しいため、介護職員や看護職員が兼務して行っている。

⑥余暇活動支援内容

余暇活動については、介護・看護業務が多いため計画的実施が難しく、業務に余裕がある場合に随時下記の内容を実施した。

ア．運動を伴う活動

・テーブルボーリング

・体操、ストレッチ、歩行訓練

イ．静かに行う活動や感覚刺激やリラクゼーションを目的とした活動

・季節ごとの製作活動（こいのぼり、花紙壁画、クリスマスツリー、ひな祭り等）

・アロママッサージ、オーガンジー

・感覚遊び（水溶き片栗粉やスライム等）

３．その他

①研修報告

職員配置の関係で外部研修等への参加はできず、休日（土・日曜日）に自主的な研修参加を行った職員は数名いた。次年度は事業所内・外の研修参加や勉強会を計画していきたい。

②行事報告

利用対象者が重度の肢体不自由及び医療的配慮を必要とする方が多いため外出行事等は難しいのだが、１月に近隣の神社へ初詣と３月に桜の花見を行った。

③健康診断

今年度は、正規職員３名と非正規職員１名の健康診断を行なった。

④防災訓練

今年度は１０月と３月に防災業者同席のもと避難訓練等を実施した。